



実践団体・プラン基本情報

実践団体の基本情報

記入日	2024年1月19日(2023年度のチャレンジプラン)
プラン名	みんなでたすかる～つながる防災プロジェクトN～
実践団体名	泉南市立西信達中学校
代表者名	岩崎 誠
電話番号	072-483-2249
メールアドレス	jhs-nishishindachi@city.sennan.osaka.jp
実践団体の説明	大阪府泉南市の北西部に位置する中学校。西側は、大阪湾に接している。生徒数は157名の小規模校である。校区は、1小学校1中学校で構成され、元々は漁業や農業が中心で、地域の絆やつながりは強い。2028(令和6)年度には、小学校と中学校が統合され、新たに「義務教育学校」となることが決定している。そこで、「防災教育」を新しい学校のカリキュラムの一つの柱としたいと考えている。
所属メンバー	(代表・校長) 岩崎 誠 (教頭)南 英介 (教務主任) 猪子洋子(生徒指導主事・防災士) 島田拓也 (健康安全部) 明貝孝徳・植田夕紀子 (第2学年主任) 中口叔信 (2年生学年団) 中野裕一 梶野五月 溝畑基 藤川貴大 (2年生防災リーダー) 生徒55名 1.3年生徒 教職員
活動の本拠地	大阪府泉南市岡田3丁目24-1
活動開始時期・結成時期	2019年4月
過去の活動履歴・受賞歴	●2019年4月～2022年3月 防災総合学習I期(年10時間程度 総合的な学習の時間に実施) ●2022年4月～現在 防災総合学習II期(教科横断型の防災学習・防災教育を柱とするカリキュラムマネジメント)



プランの基本情報

プランでの実践主体	1. 学校・教育関係
プランの運営側の人数（実数）	約 15 人
プランの活動地域	大阪府泉南市西信達中学校区
プランの防災教育の対象者	1. 乳児 2. 幼児・保育園児・幼稚園児 3. 小学生（低学年） 4. 小学生（中学年） 5. 小学生（高学年） 6. 中学生 10. 教職員・保育士等 11. 保護者・PTA 12. 地域住民
防災教育の対象者の人数（実数）	約 200 人
プランが対象とする災害	1. 地震 2. 津波 8. 火災 9. 災害全般
プランの活動目的	1. 防災意識を高める 2. 災害を想定した訓練 3. 防災に関する知識を深める 4. 遊び・楽しみの要素を入れた防災 5. 災害を疑似体験 6. 災害に強い地域をつくる 7. 災害対応能力の育成 8. 防災に役立つ資料・材料づくり 9. 防災に関する技術の習得
対象者が身につく知識・技能等	1. 地震・津波・火山災害 3. 災害時に発生する課題・影響 4. 過去の教訓が教える対応策 5. 起こりうる災害の地図等による可視化 6. 平時に行う被害を出さないための備え 7. 災害発生時に身の安全を確保するための行動 8. 災害対応・復旧・復興時の立ち直りに向けた助け合い
プランの活動形態	1. イベント・行事 2. 講習会・学習会・ワークショップ 4. 総合的な学習（探求）の時間 5. 教科 6. 特別活動 7. 道徳 8. 学校内の諸活動 10. 校外学習・移動教室 11. 家庭や地域で行う個別学習 12. 体験学習 13. 避難・防災訓練 14. 研究
プランでの連携先	1. 学校・教育関係



	3. 保護者・PTA 4. 町会・自治会 6. 消防団 17. その他（具体的に：泉南市危機管理課・泉南市登録防災士・泉南市女性消防団）
実践にかかった金額	30万円未満

プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	・23年度の防災学習の年間予定を検討（健康安全部・学年会議）	・各教科のカリキュラムデザイン（案）の提出依頼 ・2年生防災ゼミのシラバス作成	
5月	防災ゼミのシラバス作成 各教科との横断内容の確認 ・実施時期の確認 カリキュラムデザインシート作成	1日：防災ゼミシラバス完成 10日：防災ゼミ配属希望調査	17日：防災ゼミ開講式・スローガン決定 24日：保小中合同避難訓練地震に伴う津波発生時を想定 29日：HUG体験 30日：神戸校外学習（2年）
6月	学年会議 防災ゼミの内容確認	調理実習準備 車椅子準備	7日：防災ゼミ活動・防災調理実習
7月	学年会議 防災ゼミの内容確認	各地区の区長さんに連絡	
8月			
9月	学年会議 防災ゼミの内容確認 運営委員会・職員会議 フェスタ当日の行動予定を共有 企画展示に関する共有	各地区防災倉庫への取材アポイントをとる 民生委員さんに協力を依頼	1日：防災ゼミ（地域フェスタ・防災ブースの内容検討） 6日：防災ゼミ（新聞作成・パッキング法・車椅子体験・新聞で防災工作体験） 13日：防災ゼミ（防災倉庫取材） 15日：防災ゼミ（認知症高座 WAO） 25日：NHK 井上二郎さんによる出前



			授業
10月	<p>学年会議 防災ゼミの内容確認</p> <p>運営委員会・職員会議 フェスタ当日の行動予定を共有 企画展示に関する共有</p> <p>1年生への防災出前授業 詳細を共有</p>	<p>発表に必要な物品の買い出し</p> <p>パソコンやタブレット端末を使った編集作業の準備</p> <p>使用する物資物品の搬入搬出 当日の予定作成</p> <p>ふり返りを配布</p>	<p>4日：防災ゼミ（取材まとめ記事作成・レシピ集作成開始・災害弱者への配慮検討）</p> <p>13日：防災ゼミ（防災倉庫の中身紹介作成・レシピ編集等準備）</p> <p>18日：防災ゼミ（100均防災リュックの展示案作成等準備）</p> <p>24日：防災ゼミ（エコノミークラス症候群体操練習等準備）</p> <p>28日：防災ゼミ（各防災ゼミの企画交流・模擬展示体験会）</p> <p>29日：西信達地域フェスタ本番</p>
11月	<p>学年会議・職員会議 防災ゼミふり返りと今後の活動確認・出前授業打ち合わせ</p>	<p>16日 JAE ナカザワ建販さんとの打合せ</p>	<p>10日：「防災出前授業」の練習</p>
12月	<p>拡大学年会議 1・2年打ち合わせ 出前授業の流れ共有</p>	<p>出前授業練習 ふり返り作成</p>	<p>12日：「防災出前授業」の実施（中学1年生向け）</p>
1月	<p>学年会議 防災ゼミの内容確認 泉南市危機管理課と連携</p>	<p>令和6年能登地震関連の新聞記事の収集</p>	<p>合同ゼミ（能登半島地震から考える） 防災ゼミ：避難所運営レクリエーション企画会議</p>
2月	<p>健康安全部打ち合わせ 生徒会ミーティング 学年会議・職員会議</p>	<p>「たすかる」実施要項作成・共有 関係機関連絡</p>	<p>各防災ゼミでの経験を生かした避難所の設営と運営に関する検討会</p>
3月	<p>生徒会ミーティング 学年会議・職員会議</p>	<p>「たすかる」詳細最終調整</p>	<p>21日：たすかる（防災総合レクリエーション）</p>



実践したプランの内容

プラン全体の概要	<p>【目的】</p> <ol style="list-style-type: none">1、中学生が地域の防災活動に取り組み、家庭や地域の防災意識を高める。2、保育所・幼稚園・小学校・中学校、保護者、地域とのつながりを意識し、交流を主とした活動を展開する事で、より実践的で自分たちの地域にあった防災学習・防災プランを共に生み出す。3、「楽しみながら、防災を！」を合い言葉に防災学習の種をまき、中学生の気づきや関心への探求をサポート・応援する。4、一過性の取り組みとして終わることのないよう西信達地域で長く続いていく新たな防災教育（仮称：西信ふるさと防災科）・地域防災行事の骨格を作る。 <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none">★中学生が主体となって地域を守る、防災学習・防災教育プランの開発<ul style="list-style-type: none">→2年生の総合学習において4つの防災ゼミを立ち上げる。その中に『防災子ども記者クラブ』を発足し、地域の魅力や備えを発信する『コミュニティー新聞』を発行する。→同じく防災ゼミにおいて、『防災クッキング等』を企画する。災害時の調理方法や少ない水でも調理できる袋での調理法を全校並びに地域の方と共有する。→コロナ禍により3年間中止となっていた『西信達地域教育協議会』主催の「西信達地域フェスタ」に、中学2年生を中心とした防災ゼミごとの単位で参加し、舞台発表による情報発信や展示ブースを設営し、情報発信等を行う。防災ゼミごとに、展示ブースや体験コーナーの運営等、情報提供に取り組む。★中学生による避難所設営・運営★泉南市危機管理課との連携による『総合防災レクリエーション』<ul style="list-style-type: none">→泉南市が備蓄している災害時用物資をお借りして、実際の避難所開設・運営訓練を実施する。その際、誰にとっても安心安全な避難所とするよう必要な掲示物の作成や教室配置案の作成に取り組む。
----------	--



<p>プランの「チャレンジ」の結果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1、中学生が地域の防災・減災について主体的に考え、活動することで、区長や民生委員、民生児童委員や保護者など、地域が連携して防災意識を高めることができた。 2、教職員は「道徳・総合・特活」の時間に加えて、「各教科」において、「防災・減災」の視点を意識的に取り入れるようになった。そこで、生徒は、年間を通して行われる各教科で「防災・減災」について継続的に考え、取り組むことができた。様々な分野・視点から防災・減災について考えられることが当たり前環境になりつつある。 3、知識と経験を積んだ中学生、PTA や地域の方々と次の①～③の交流を行った。 <ol style="list-style-type: none"> ①中学生は、身につけた知識や経験をアウトプットする機会が定期的にあつたので、より自分ごととして考え行動することができるようになった。 ②PTA は、中学校で学んできたことを家庭で子どもから質問されたり、確認されたりする機会が増えたことで、各家庭において、「災害時の備えについて見直す機会が増えた。」などのご意見をいただいた。 ③学校応援団等を含む地域の方からは、中学生の防災・減災の取組への興味と期待感をもっていただけた。具体には、「もっと広く地域に発信しましょう。」「何かあればいつでも言ってください。」と温かな言葉と学校や地域が一体となった協力体制を組むことを再確認できた。 4、授業での交流やイベントを通して地域と学校がつながることができ、防災の視点からアプローチすることで「地域の学校」として地域の要となることができると確信を持つことができた。
-----------------------	---

<p>実践内容・方法・成果</p>	<p>1、中学生が主体となって地域を守る防災学習・防災教育プランの開発（防災ゼミの開設）</p> <p>中学校2年生の総合学習は、全70時間あり、中学校1年生の全50時間から20時間増加する。この点に着目し、中学校2年生において「防災・減災」をテーマとする4つの防災ゼミを立ち上げた。</p> <p>※このとき各教員の専門科目や得意分野を活かして、研究テーマを設定することに重点を置いた。そのための方法として、大学の授業をイメージした「シラバス（教員独自）」で計画し、発行した。教員は、このシラバスを記入することで、「自分の専門分野」と「防災・減災」の取組を関連づける方法を考えることができる。一方、生徒は、シラ</p>
-------------------	---



バスを参考にして希望のゼミを選択することで、研究やチャレンジしたい分野を自分で選べるため、防災ゼミの活動に自ら考えをもって主体的に取り組むことができる。

【各ゼミの取り組み内容（シラバスより）】

A「助ける助かるつながる」ゼミ

- 担当は、保健体育の教員。身の回りにある物だけで緊急時の応急処置ができるようになる。新聞紙で、災害時に役立つ物を作る。例えば、スリッパやコップなど緊急時に必要になりそうなものを新聞で工作したり、エコノミークラス症候群の予防体操を考え発信したりする。

■生徒考案のスローガン

「どんな人でも安心できる防災に！」

B「防災ユニバーサル」ゼミ

- 担当は、理科・支援教育担当の教員。災害弱者について調べる。お年寄りや障がいのある方、認知症の方、乳幼児、外国人、観光客（旅行者）、そのときケガをしている人などに、どのような支援をすればみんなが不安なく助かるか、体験を通して考える。

■生徒考案のスローガン

「ここを広く、助け合う」

C「災害時の食と生活環境」ゼミ

- 担当は、技術・家庭科の教員。災害時に必要な食べ物について、「お年寄り」、「アレルギーを持っている人」、「小中学生」、「乳児」の「4つの立場」から考える。様々な視点から災害時につくれるレシピを考えて、レシピ雑誌を発行する。

■生徒考案のスローガン：

「いつでもどこでもおれらが食べさせる！」

D「防災こども記者クラブ」ゼミ

- 担当は、国語科の教員。「広報」を担当する。各防災ゼミで活動していることを記事にして、より多くの人に届ける活動をする。各地区の防災倉庫取材した。各地区長さんや地区の防災委員の方からお話を伺い、防災倉庫には「共助」につながる物品が備えられていた。また、「ニュース ぼうさい『みらい』」という新聞を創刊し、地域に発信した。

■生徒考案のスローガン：



「伝えて届けて広げてく！」

以上のように、今年度中心学年に据えた2年生担当教員の専門教科を活かし、4つのゼミを開設した。4つのゼミの活動は、全て西信達校区のハザードを理解し確認することをスタート地点とした。また、中間地点を「西信達地域フェスタ」、ゴール地点を「子ども避難所運営活動」とした。

「西信達地域フェスタ」では、まず、中学生が「防災・減災」について、楽しみながら真剣に取り組んでいることを地域に発信し、体験ブースの発表を通して、老若男女さまざまな方に「楽しみながら防災について考えるきっかけ」をつくることを目標とした。

「子ども避難所運営活動」では、「中学校」・「中学生」が中心となって『子ども避難所』を設営することで、地域の人に実際の災害が起きた時のことや避難所の様子を知ってもらい、事前準備と心の準備に役立てることを目標とした。

それぞれの防災ゼミが、異なるアプローチ方法で、同じ目標に向かうことで「気づきの視点」を増やし、相乗効果を生むことができるのではないかと仮定し、取り組んだ。

- ・教職員の組み合わせによって毎年違うテーマでの防災ゼミの開設が可能である。
- ・防災教育について教科担当制のように、学校全体で取り組むことができる。
- ・一見すればバラバラになりがちな取組も「スタート（1学期）・中間地点（2学期）・ゴール（3学期）」となる取組を決めておくことで、同じ目的意識を持って全員で取り組むことができる。

2、西信達地域フェスタに参加

コロナ禍により3年間中止となっていた西信達地域教育協議会主催の「西信達地域フェスタ」に、中学2年生が防災ゼミで参加し、舞台発表での情報発信・展示ブースでの情報提供等に取り組んだ。防災ゼミごとに展示ブースの運営や体験コーナー・情報展示に取り組んだ。

【各防災ゼミによる企画展示内容】

A「助ける助かるつながる」ゼミ

- 防災工作体験・エコノミークラス症候群予防体操の実演と体験

B「防災ユニバーサル」ゼミ

- 災害弱者に関する展示・車椅子体験コーナー

C「災害時の食と生活環境」ゼミ

- 防災レシピ集の展示・配布・アルファ化米の配布



	<p>(泉南市から提供を受けた)</p> <p>D「防災こども記者クラブ」</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 100均グッズで作る防災リュックの中身展示 (大人用・子ども用)・防災倉庫の中身を紹介・地域情報 & 学校での防災学習の情報を伝えるニュースぼうさい「みらい」の創刊・バルーンアート (子ども用防災リュックの中身より) <p>A・B・C・Dゼミ合同</p> <ul style="list-style-type: none">➤ パネルアンケートの実施 <p>A・B・C・Dゼミ合同舞台発表</p> <p>「みんなでたすかる～つながる防災プロジェクトN～」</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 泉南市ハザードマップより西信達地域のハザードについて説明し、各防災ゼミでの取組を伝えた。さらに「西信達地域フェスタ」当日を想定し、クロスロード風の参加型のゲーム感覚で聞ける発表を続けて実施した。聞きながら各家庭の防災・減災について、考えてもらえるように心がけた。 <p>【当日の地域の方・小学生・参加団体からの反応 (一部)】</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 「中学生が防災に関する取組をここまでしているとは思わなかった。」➤ 「エコノミークラス症候群予防体操は、よく考えられていて楽しかった。」➤ 「防災倉庫の中身は、実際何があるのか知らなかった。」➤ 「防災リュック (子ども用) におもちゃや塗り絵、風船が入っているのが新しい感じ。たしかに子どもは遊び道具もいるなと思った。」➤ 「防災レシピ集の中身が、よく考えられていて参考になる。」➤ 「ゲームとかがたのしかった。」➤ 「中学校で防災関係のことをするときにはぜひ、消防団もよんでほしい。一緒にやりたい。」➤ 「これだけやってくれてたら安心」➤ 「フェスタに子ども達が企画・展示で参加してくれるのはとてもいい。大人だけで企画運営するよりも元気がでる。しかも防災となると、どこの家も自分達のことだから興味がある。ぜひ来年も参加を！」 <p>【フェスタ当日の防災ブースで、保護者や地域の方から】</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 「中学生の防災ゼミ活動」に対する期待のこもった前向きなご意見をたくさん聞くことができた。➤ 「地域」と「学校」が新たな切り口で「つながる」ことができたと感じる。また、同じように『西信達
--	--



地域フェスタ』に出展されていた自衛隊の方や泉南市女性消防団の方にも興味をもってもらい、直接お話することができたことで、今後の中学校での取組にご協力いただける約束をとるなど、新たな「つながり」が生まれた。

- 企画から準備、当日の運営・片付けまでを自分たちでやりきった生徒からは、「小学生にもたくさん体験してもらえてうれしかった。」「自衛隊の人や消防団の人から、すごく褒められて、びっくりした。」「バルーンアートみたいなちょっとした楽しみでも、小さい子達がすごく喜んでくれて、うれしかった。災害時も小さい子達を笑顔にしてあげられるような気がした。」「みんなが、『レシピ集助かるわ〜。』って言いながら受け取ってくれた。考えるのも作るのも大変だったけど、喜んでもらえてうれしい。」「久しぶりのフェスタで、遊びに来るだけじゃなくて、企画展示で参加できたのはよかった。ちょっと大人になった気分がした。」「学校で私達が勉強していることがみんなの“役に立つこと”がわかった。」「みんなに褒められて嬉しかった、がんばろうとおもった。」などなど、充実感あふれる感想が多かった。

3、中学生による避難所設営・運営

泉南市危機管理課の方と密に連携をした『総合防災レクリエーション』を企画

- 泉南市で備蓄している災害時用物資をお借りして、実際の避難所開設・運営活動を実施する。その際、誰にとっても安心安全な避難所とするよう、必要な掲示物の作成や教室配置案の作成に取り組む。
(こちらは時期が後ろ倒しとなったため、この最終報告書提出段階では企画準備段階です。)

- 令和6年3月21日開催予定
『「たすかる」(総合防災レクリエーション)』

(内容)

① 各教室

地震・津波・火災からの避難に関する Kahoot
(オンライン双方向で実施できるクイズ形式のゲーム) を作成・実施

② 特別教室

煙体験・暗闇避難体験

(煙発生装置を使って煙体験をする。さらに教室を



	<p>暗くして煙の充満する暗闇の中をどう避難するか体験する。)</p> <p>③ グラウンド 煙の速さ体験 (煙役 (原付バイク) から逃げ切るため、駆け足でグラウンドを一周する。)</p> <p>④ 体育館 こども避難所設営・運営活動 誰にとっても安心安全な避難所となるように中学2年生が考えて設営する。 →各ゾーンに分かれて体験を実施 →地域フェスタで行った展示発表を再展示 (能登半島地震をうけて、追加内容もあり) →泉南市登録防災士さんの協力 →泉南市女性消防団による「応急救護体験」</p> <p>⑤ 対象 西信達中学校生徒および西信達の地域の方 →保育園・幼稚園・小学校にもお知らせする。 →各地区長さんを通じて、西信達の地域の方々にも広くお知らせする * 前年度実施した2年生のみ避難所運営活動を、全校生徒・地域住民に対象を拡大して実施する。</p>
--	--



プランにおける工夫：プランを実践する上で、下記について具体的に工夫をしたことはありますか。
該当するものについて具体的な例を挙げながら記入してください。

この項目は任意項目であり、全てを埋める必要はありません。当てはまるもののみ記入してください。

<p>1. 【準備段階】<u>運営側の担当者を決める際の工夫</u> 例：役割分担を明確にした</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今ある取組を活用することを第一に考えた。 ・「チャレンジ」の中心となる学年を、2年生とその学年団のみに設定した。 <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> * 総合の時間が70時間に増加するため。 * 「核」となる取組を行う際に、学年をまたぐ場合、連携が難しくなるため。
<p>2. 【準備段階】<u>地域のキーパーソンと連携する際の工夫</u> 例：自治会と連携をした</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の会議に何度も参加して、直接会話を交わした。直接の名刺交換や連絡先を交換した。 <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> * 直接顔を合わせてお話することで、計画の内容や気持ちが伝わりやすいから。お互いの顔が分かる関係になることが大切であるから。
<p>3. 【準備段階】<u>運営側を組織化する際の工夫</u> 例：協議会を作った</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中心となる学年をはっきりと決めた。 ・もともとある運営組織から絶対に増やさない。 ・「学年会議」や「職員会議」「分掌会議」などの議題として企画段階から報告連絡相談を心がけた。 <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> * 「会議」が乱立すると、それだけで教員側のモチベーションの低下を招くと考えたため。
<p>4. 【準備段階】<u>対象者や対象地域の範囲を決める際の工夫</u> 例：活動範囲を限定した</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期は、「2年生の取組」として限定した。 ・2学期は、「出前授業」として1年生と2年生が連携し、本取組が自然と学校になじむよう意識した。 ・3学期は、もともと学校全体の取組としてあった「たすかる」(総合防災レクリエーション)に、2年生の取組を合流させることで、学校全体の取組として自然につながった。
<p>5. 【準備段階】<u>準備時間を確保する際の工夫</u> 例：定例の打ち合わせを設けた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月に行う学年会議の中で、共有する時間を確保した。
<p>6. 【準備段階】<u>活動場所を確保する際の工夫</u> 例：公民館などを無料で使用した</p>	
<p>7. 【準備段階】<u>活動資金を確保する際の工夫</u> 例：自治体の助成金に応募した</p>	
<p>8. 【準備段階】<u>知識や情報を収集する際の工夫</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『防災教育チャレンジプラン』のアドバイザー制度を活用し、諏訪清二先生に来校して研修していただくことがで



例：専門家による勉強会を開いた	<p>きた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぼうさいこくたい」に参加し、そこでの学びは大きいと感じた。 ・「ぼうさいこくたい」のオンデマンド配信を、多くの先生方と共有し、専門教科や興味関心に合わせて視聴してもらえるように声をかけた。
<p>9. 【準備段階】教育・訓練プログラムや教材を作成する際の工夫</p> <p>例：webサイトを引用した</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校独自または泉南市にもともとある取組や活動を大切にする。その中で、まだ活用できていない制度を活用したり、協力を仰げる専門家の方にアドバイスを頂いたりする機会を意識的に作った。
<p>10. 【実行段階】経験豊富なアドバイザーを確保する際の工夫</p> <p>例：実行委員に助言を求めた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『防災教育チャレンジプラン』の発表後にいただいたコメントシートを熟読し、学年会議で検討した。 ・実行委員に助言をもとめた。
<p>11. 【実行段階】地域の理解を得て関係機関と連携する際の工夫</p> <p>例：行政・自治会等と共催した</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・もともとある地域の行事に「参加希望」を出した。地域の中学生の取組は大歓迎をされるなど、学校と地域とのつながりが増えたと感じている。
<p>12. 【実行段階】活動時間を確保する際の工夫</p> <p>例：総合学習の時間に実施した</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒も教員も放課後は、部活動や習い事、打ち合わせなどにより多忙のため、活動時間は授業時間内の「総合的な学習の時間」や「特活」の時間に確保した。
<p>13. 【実行段階】活動経費をなるべく抑える際の工夫</p> <p>例：必要物品を消防署から借りた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・泉南市危機管理課の協力を得て、実際の避難所で使われる予定の物品をお借りした。
<p>14. 【実行段階】他の実践団体と交流する際の工夫</p> <p>例：中間報告会でプログラムを紹介してもらい共有した</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中間報告会では、同じグループに他府県の中学校と一緒に、報告会後に校長、チャレンジプラン実行委員の方のお力をお借りし連絡を取り合った。その中で、岡山市立操南中学校さんとオンラインによる生徒同士の交流が実現した。
<p>15. 【継続段階】後任者を育成する際の工夫</p> <p>例：若手を入れた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、職員室での会話において、いつも「防災」に関する話題がある環境を作ることができた。意識していたわけではないが、中心となる2年生の取組に興味を持ってくれた教員が少しずつ増えたことが何よりの成果だったと感じている。 ・「防災学習」単独での実施ではなく、「防災×○○」の意識を持って、まずは教員自らが楽しんで、授業をチームで考えられるように意識した。
<p>16. 【継続段階】活動で得られた知識・経験を、かたちにまとめる際の工夫</p> <p>例：引き継ぎ書を作った</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内のみ閲覧できるデータサーバーを活用し、教職員の共有フォルダの中に、指導案とともに今回の取組内容を蓄積した。
<p>17. 【継続段階】活動の成果を外部に発信する際の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生が発案、作成した「ニュースぼうさい みらい」を、年4回程度、地域の広報に挟みこんでもらえるよう



例：web サイトで発信した	協力を依頼する。
18.【継続段階】 <u>活動内容を見直す際の工夫</u> 例：振り返りの会を開催した	・ 振り返りの実施・ 学年会での検討を行った

今後の活動予定・今後の展開	<ul style="list-style-type: none">● 泉南市危機管理課の方との密な連携を通じた避難所運営体験<ul style="list-style-type: none">➢ 泉南市で備蓄している災害時用物資をお借りして、実際の避難所開設・運営訓練を実施。その際、男女共同参画の視点を取り入れた避難所開設と運営になるよう、必要となる掲示物の作成や教室配置案を作成に取り組む。● 地域の行事への継続的な参加● 車中泊体験会の実施● 「防災×レクリエーション」の視点で、だれにでも気軽に楽しく学べる身近な活動として、地域に定着させる。
---------------	---

この項目は任意項目です。当てはまるものがあれば記入してください。

その他（PRポイントなど）	<p>【実施内容】の所には「生徒主体の活動」を主に記載しましたが、ここでは学校の教育課程との関連について「教職員の取り組み」について記載します。</p> <ul style="list-style-type: none">● 【教職員の取り組み】について 総合的な学習の時間に実施する防災学習については、校外での活動や外部講師による講演・実習の要素の強いものとした。 その他の教科性の強い単元についてはもともと中学校の教育課程に組み込まれている各教科の「単元」の学習において実施することとした。 <p>【例】</p> <ul style="list-style-type: none">* 国語<ul style="list-style-type: none">①「泉南市ハザードマップを読み解く」根拠の吟味（3時間）②「ことばで命を守る」魅力的な提案をしよう（2時間）③「メディアを比べよう」（2時間）④「潮のにおいは」詩（1時間）⑤「防災小説に挑戦！」構成や展開を工夫して書こう（3時間）* 保健体育 救命救急法「胸骨圧迫」「固定法」について（1時間＋3時間＋2時間時間）* 技術家庭 防災リュックの制作・中身の検討（10時間）
---------------	--



	<p>*理科 地震・津波の仕組み（6時間）台風の仕組み（3時間）</p> <p>*道徳 「海と空一檉野の人々」（国際社会の一員） 「行動する建築家 坂 茂」（社会のためにできること） 「避難所にて」（調和のある生活）</p> <p>*つながりを減災に生かすために 「リスペクトアゲーズ」（個性を尊重する社会）</p> <p style="text-align: right;">等</p> <p>・各教科の学習指導要領に照らして、教科の学習と関連付けた【知識技能】及び【思考力判断力表現力】【主体的に学習に取り組む態度】の各観点別評価を行っている。</p> <p>・教科の学習と総合的な学習の学びを関連づけたことで、（うまくいった時には、）各教科での学びを関連づけて考える姿が見られるなど、【主体的に学習に取り組む態度】の部分で生徒の成長を感じるが多かった。</p>
--	---